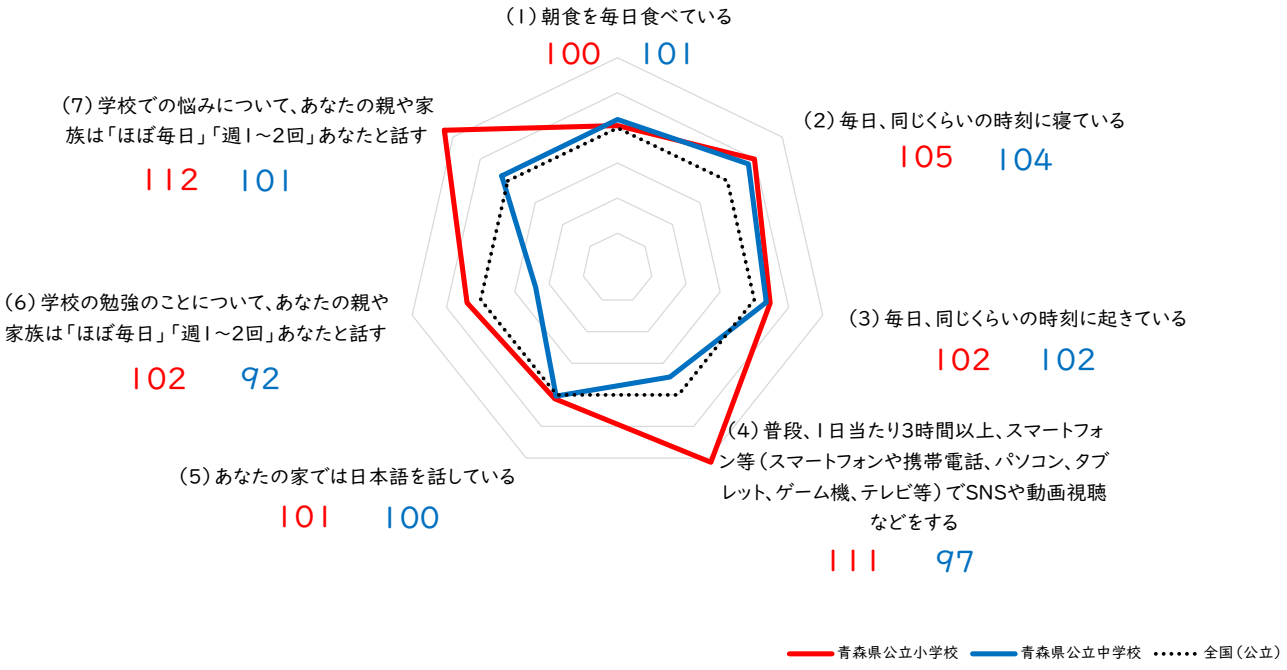
Ⅳ 質問調査

Ⅰ 児童生徒質問調査

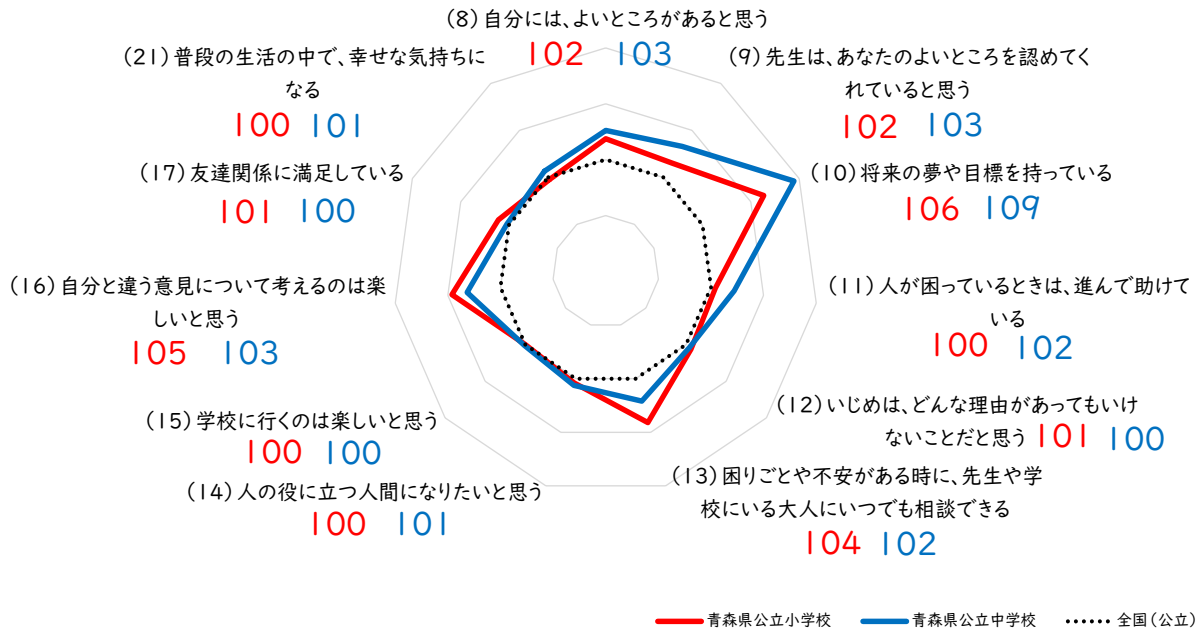
①基本的生活習慣等



・(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」については、肯定的な回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(4)「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをするか」については、「4時間以上」「3時間以上」と回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(7)「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話すか」については、「ほぼ毎日」「週1～2回」と回答した小学生の割合が全国を大きく上回っている。
・(6)「学校の勉強のことについて、あなたの親や家族はどれくらいあなたと話すか」については、「ほぼ毎日」「週1～2回」と回答した中学生の割合が全国を大きく下回っている。

○規則正しい生活習慣の確立及びスマートフォン等との関わりについては、各学校及び各家庭において、引き続き取組を続けていただきたい。

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等

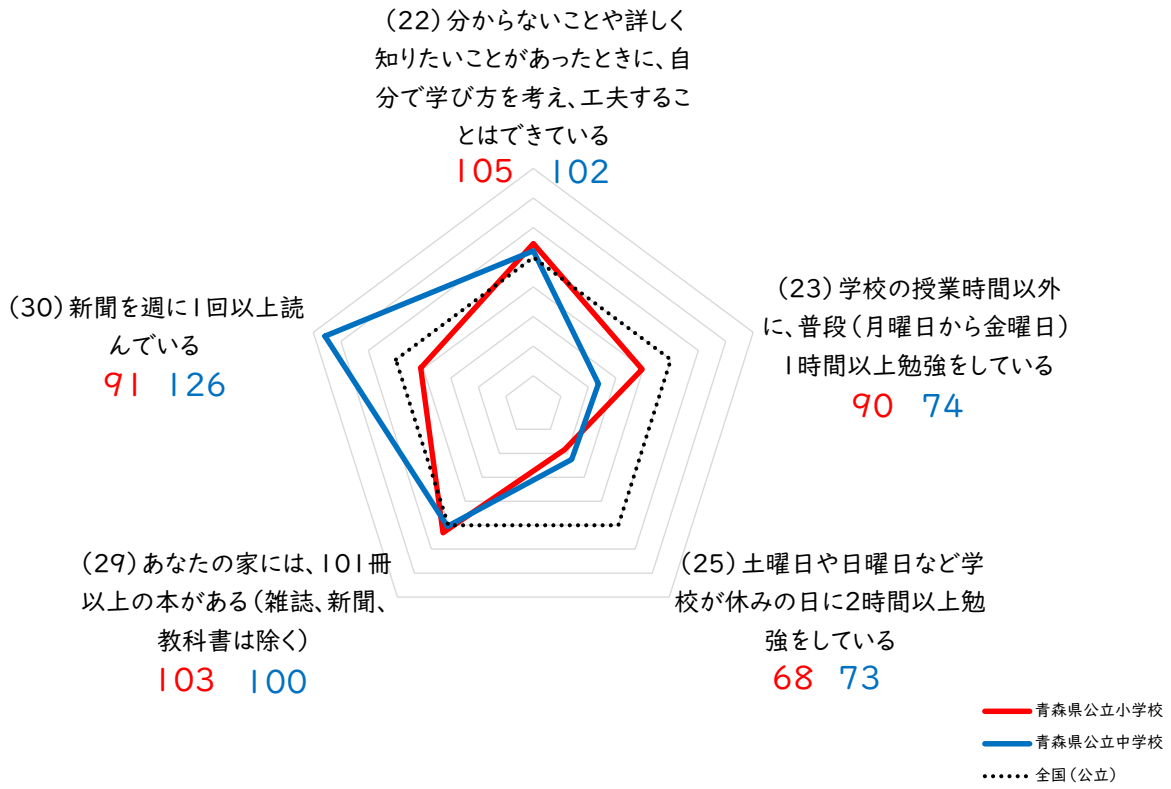


・全ての項目で、小・中学生ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・(10)「将来の夢や目標を持っている」については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(16)「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

○「将来の夢や目標を持つこと」については、各学校及び各家庭において、引き続き取組を続けていただきたい。

県総合社会教育センター
あおもり学インターネット講座・元気青森人 PowerUp コンテンツ活用表

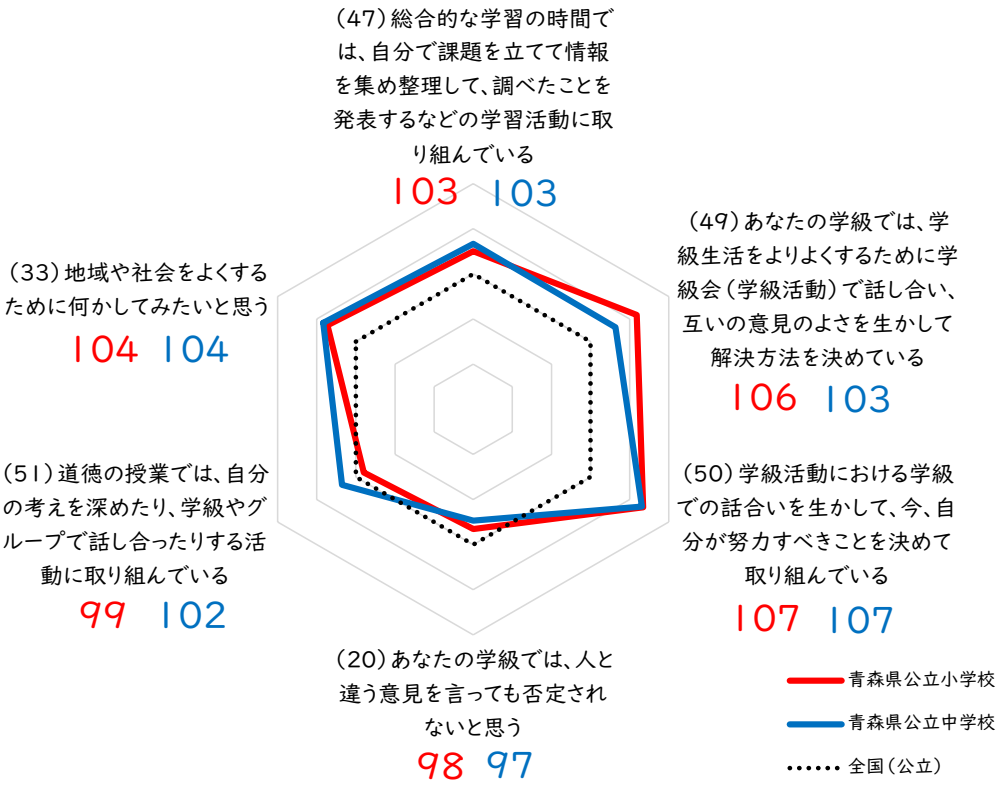
③学習習慣、学習環境等



・(22)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(30)「新聞をどれくらい読んでいるか」については、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した中学生の割合が全国を大きく上回っている一方、小学生の割合は全国を大きく下回っている。
・(23)、(25)の学校の授業時間以外の学習時間に関する回答については、「平日は1時間以上」「休日は2時間以上」の割合が、小・中学生ともに全国を大きく下回っている。

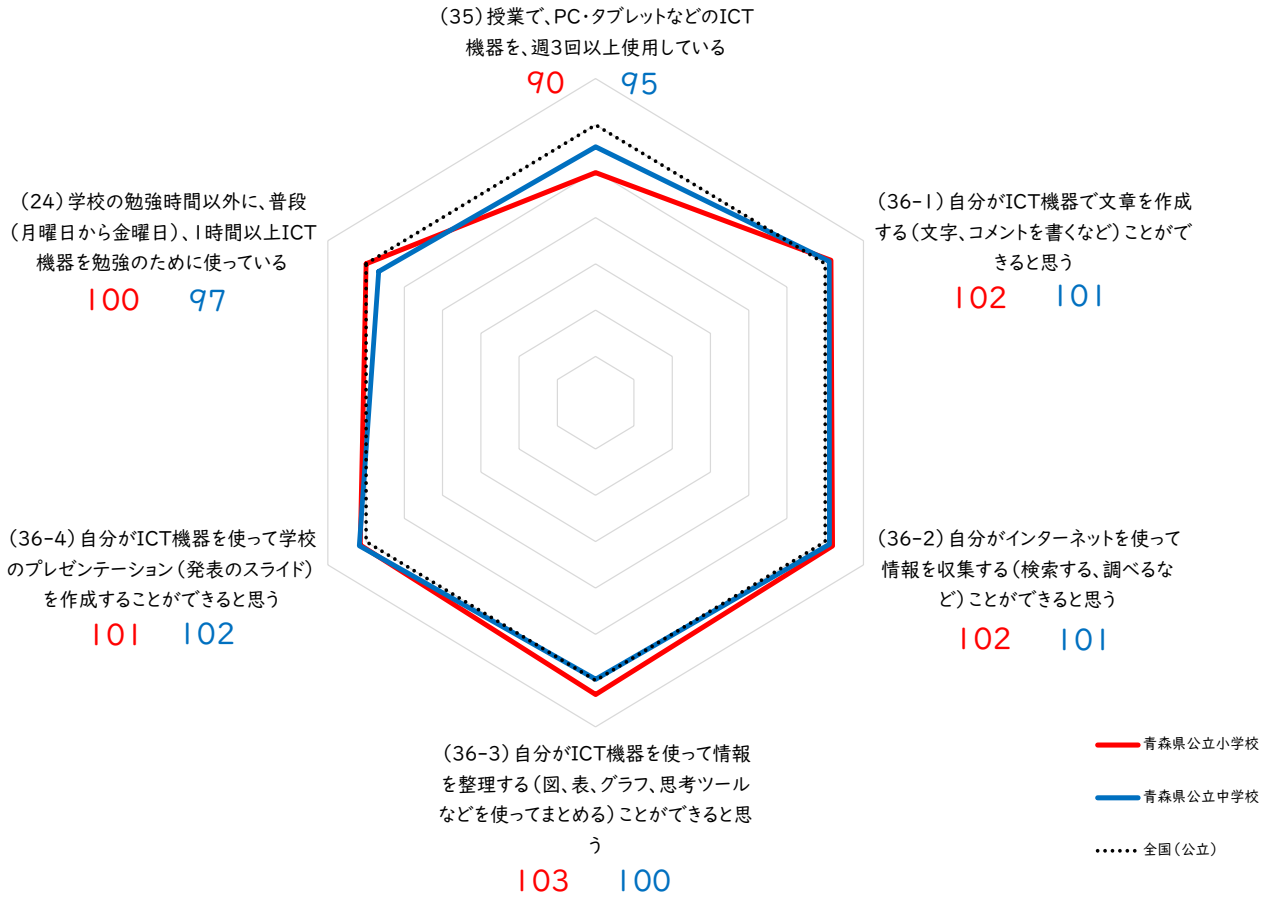
○学習習慣等の確立のためには、学校の授業時間以外に学習時間を設定する取組等も考えられる。

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科　道徳、地域や社会に関わる活動の状況等



・全6項目中の4項目で、小学生の肯定的な回答が全国を上回っている。
・全6項目中の5項目で、中学生の肯定的な回答が全国を上回っている。
・(49)「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」については、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(50)「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる(いわゆる学級活動(2)(3))」の2項目については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(20)「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」については、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・(51)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」については、小学生の肯定的な回答が全国を下回っている。

⑤ICT を活用した学習状況

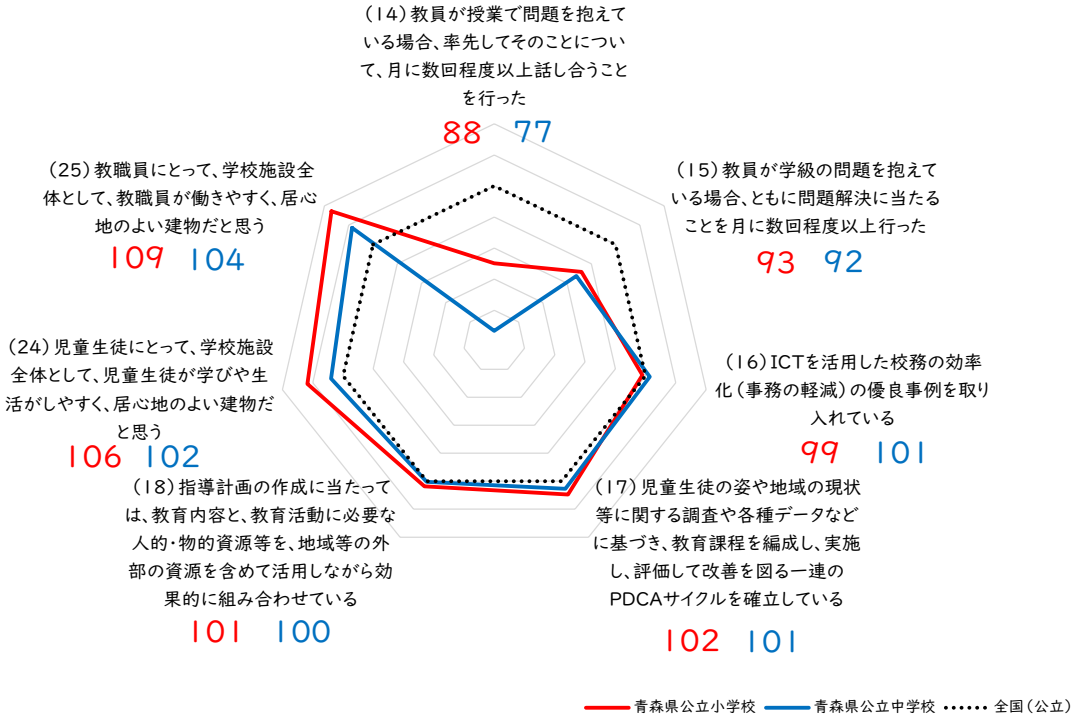


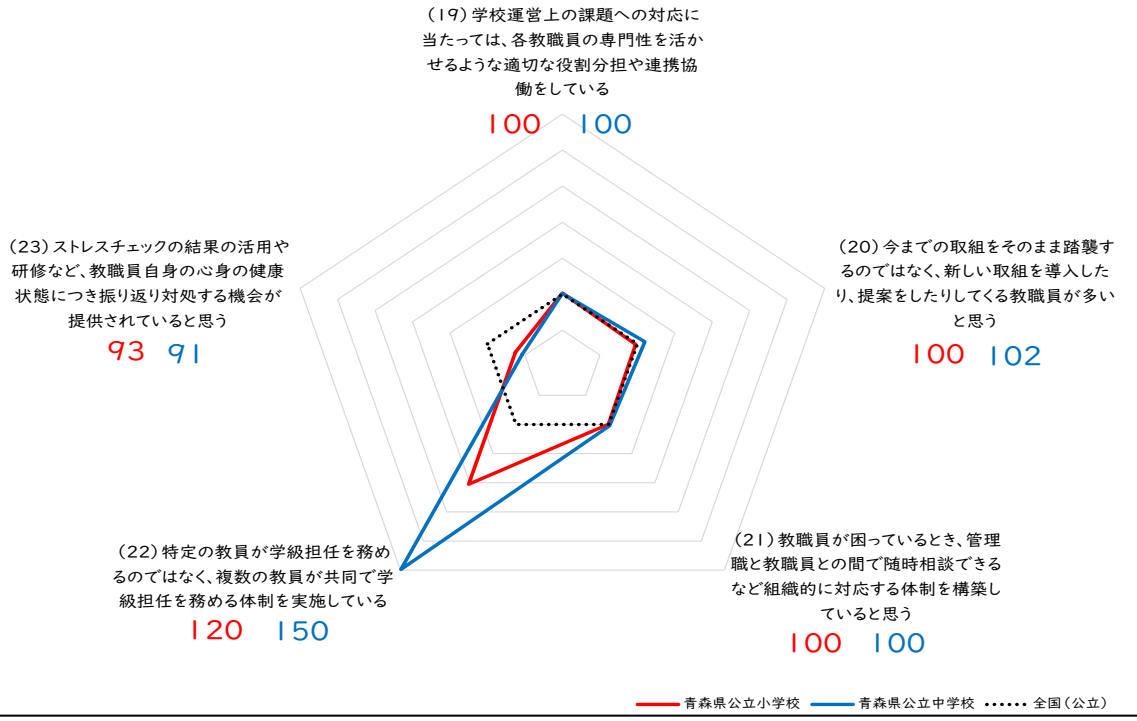
・全6項目中の5項目で、小学生の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・全6項目中の4項目で、中学生の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・(24)「学校の勉強時間以外に、普段(月曜日から金曜日)どのくらい ICT 機器を勉強のために使っているか」については、「3時間以上」「2 時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2 時間より少ない」を合わせた回答の割合が小学生は全国と同じ、中学生は全国を下回っている。
・(35)「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」については、前学年までに受けた授業で、「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」「週3回以上」を合わせた肯定的な回答が、小・中学生ともに全国を大きく下回っている。

文部科学省
ＩＣＴの効果的な活用に関する資料等について

2 学校質問調査

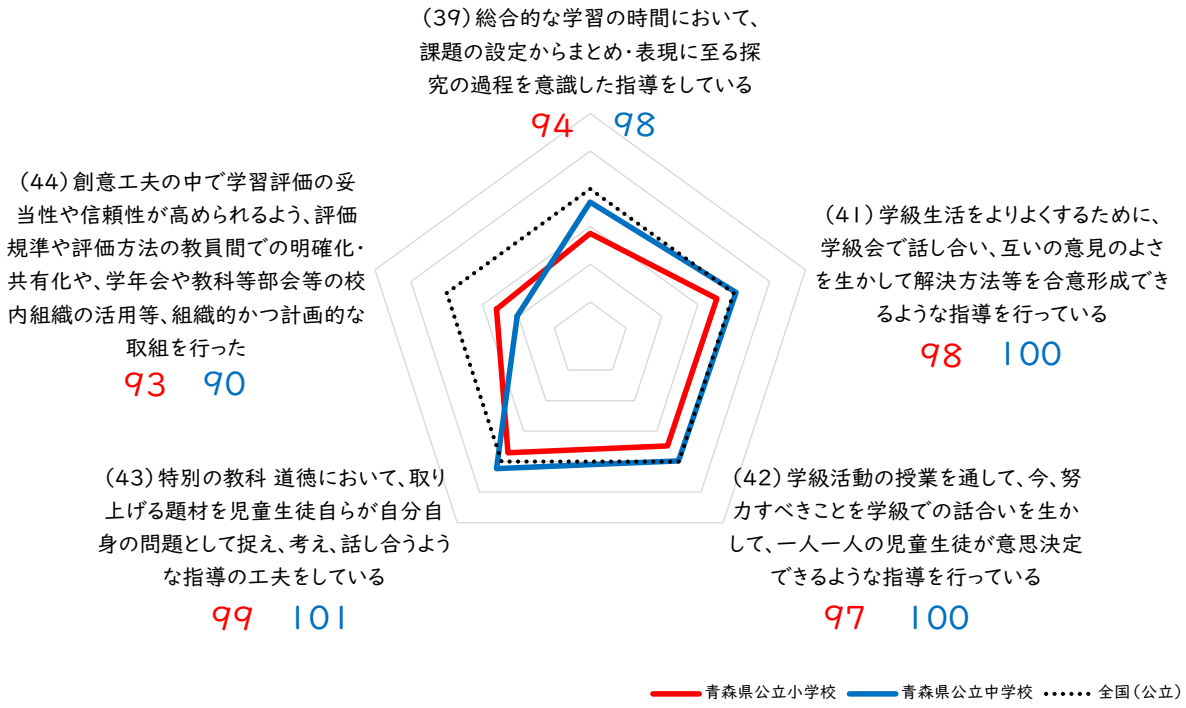
①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況





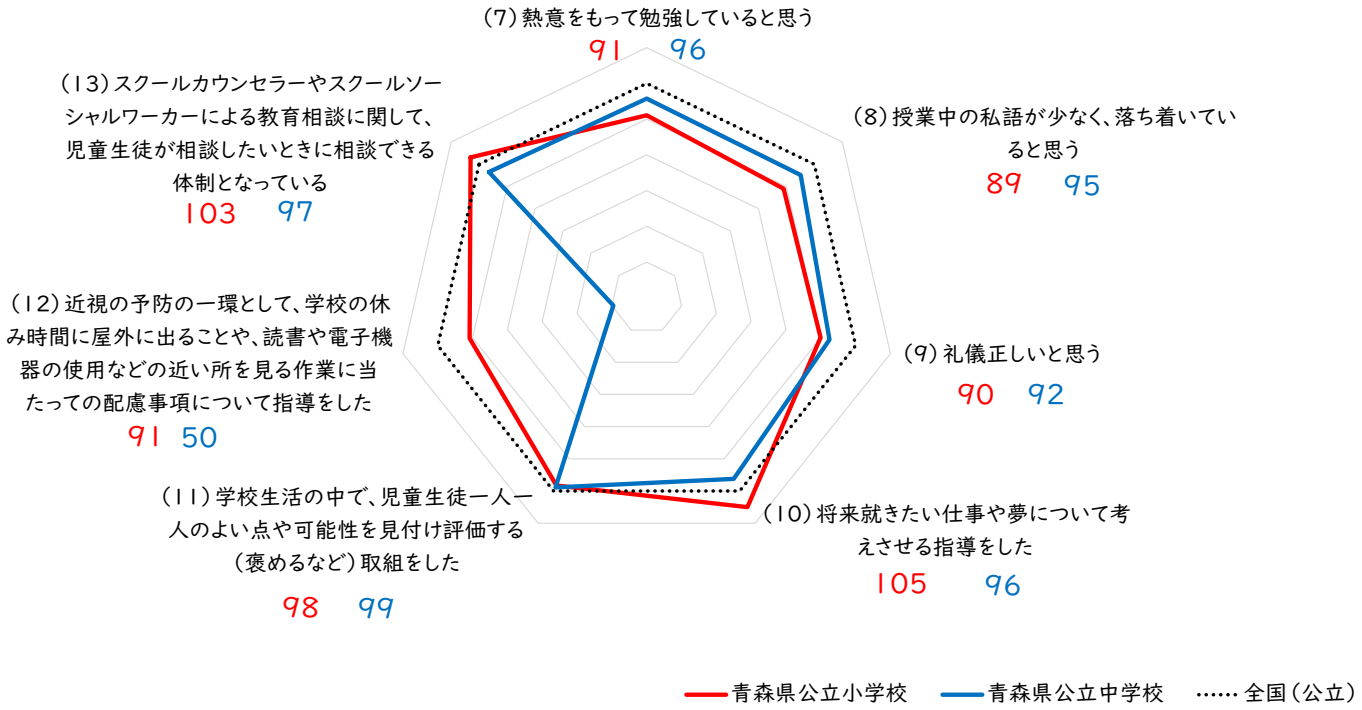
・（24）「児童生徒にとって、学校施設全体として、児童生徒が学びや生活がしやすく、居心地がよい建物だと思う」、（25）「教職員にとって、学校施設全体として、教職員が働きやすく、居心地のよい建物だと思う」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・（22）「特定の教員が学級担任を務めるのではなく、複数の教員が共同で学級担任を務める体制を実施している」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・（14）「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて、月に数回程度以上話し合うことを行った」、（15）「教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った」、（23）「ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されている」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



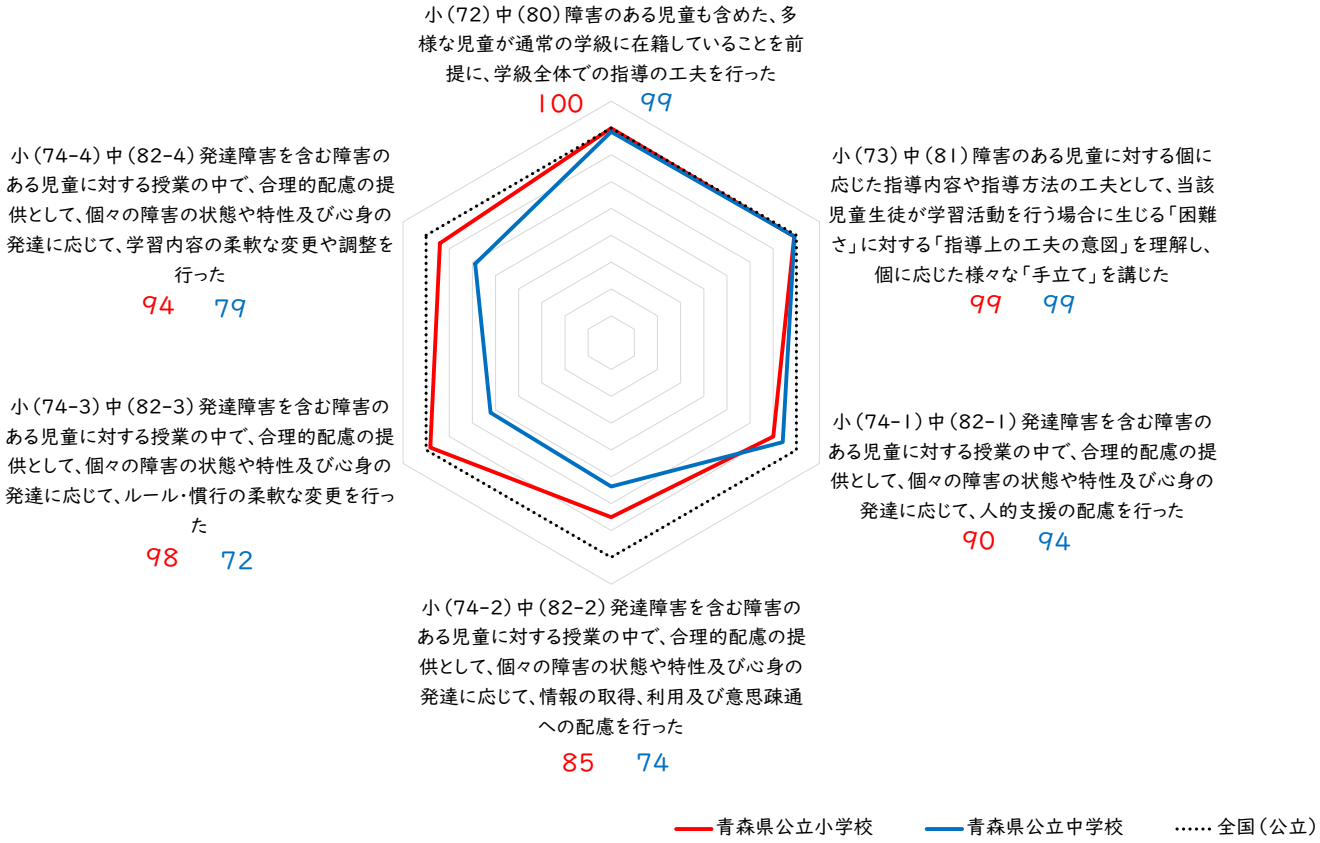
・全5項目中の3項目で、中学校の肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・全ての項目で、小学校の肯定的な回答が全国を下回っている。
・特に、(39)「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」については、小学校の肯定的な回答が大きく下回っている。(44)「創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組を行った」については、小・中学校ともに肯定的な回答が大きく下回っている。

③生徒指導等



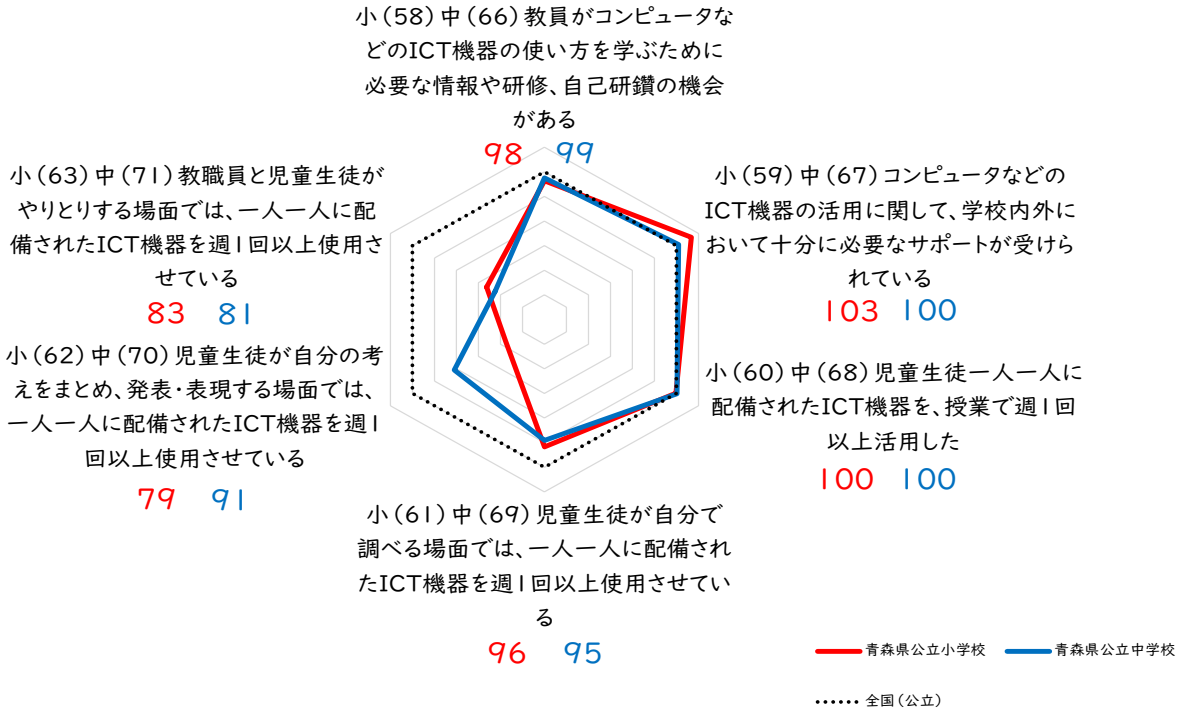
・(10)「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
・(13)「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したいときに相談できる体制となっている」については、小学校の肯定的な回答が全国を上回っている。
・全ての項目で、中学校の肯定的な回答が全国を下回っている。
・特に、(8)「授業中の私語がなく、落ち着いていると思う」(9)「礼儀正しいと思う」(12)「近視の予防の一環として、学校の休み時間に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項について指導した」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。(7)「熱意をもって勉強していると思う」については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

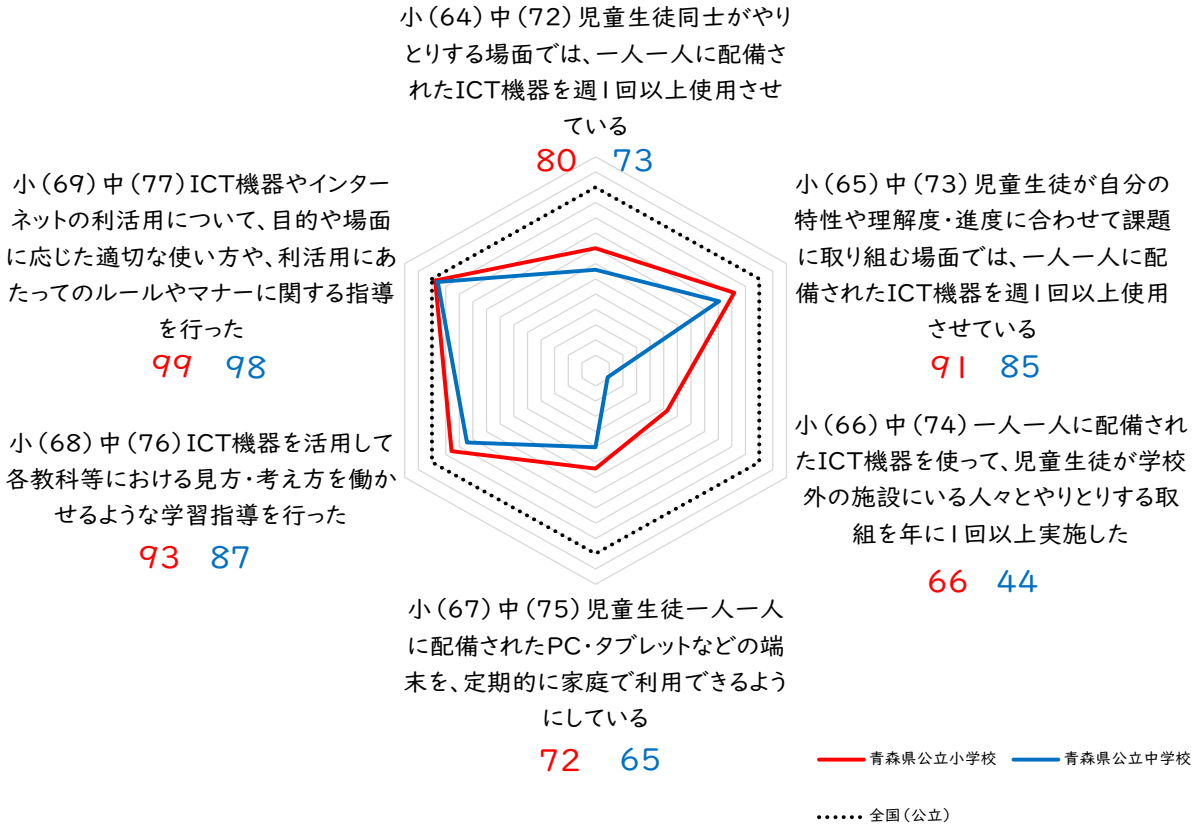
④特別な配慮が必要な児童生徒への指導



・小（72）中（80）「障害のある児童も含めた、多様な児童が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体で指導の工夫を行った」の小学校の肯定的な回答が全国と同じである。
・全ての項目で、中学校の肯定的な回答が全国を下回っている。特に、中（82－1）、（82－2）、（82－3）、（82－4）の4項目については、全国を大きく下回っている。
・小（74-1）、（74-2）、（74－4）の3項目については、小学校の肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

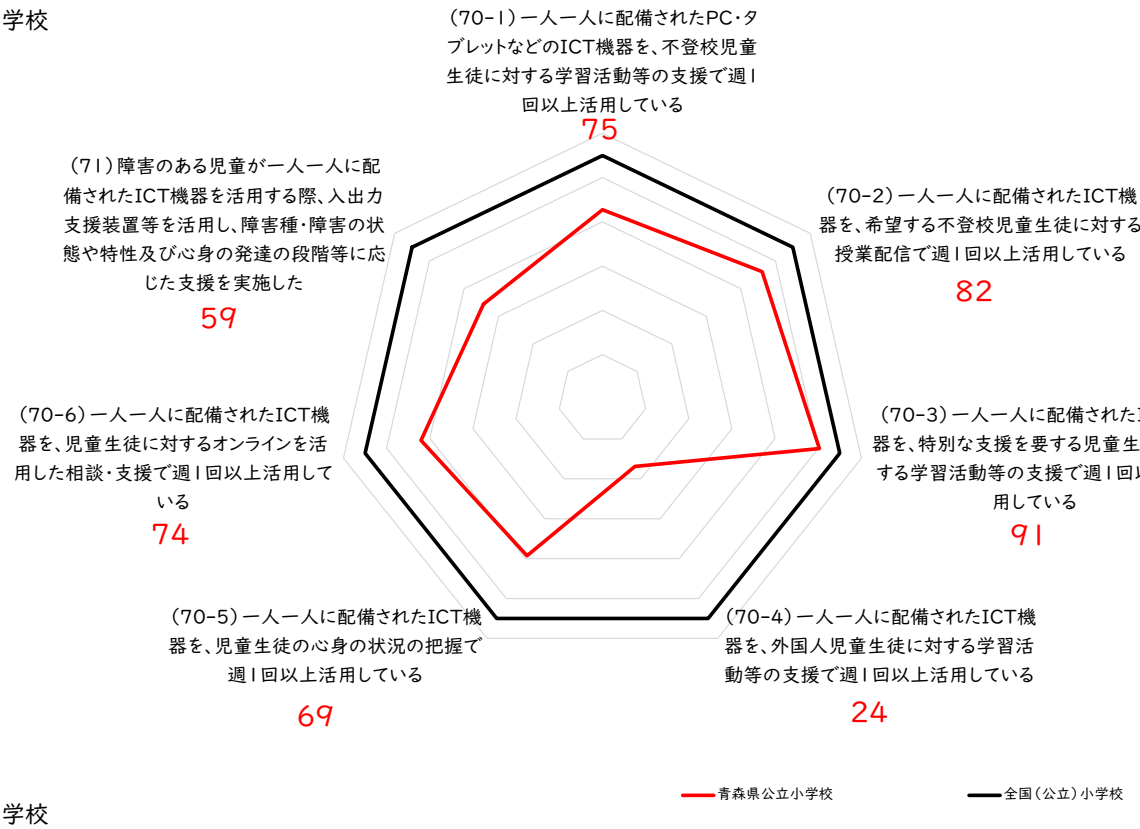
⑤ICT を活用した学習状況





・小（59）中（67）「コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
・小（60）中（68）「児童生徒一人一人に配備されたICT機器を、授業で週1回以上活用した」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じである。
・ICTを活用した学習状況の多くの項目については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

小学校



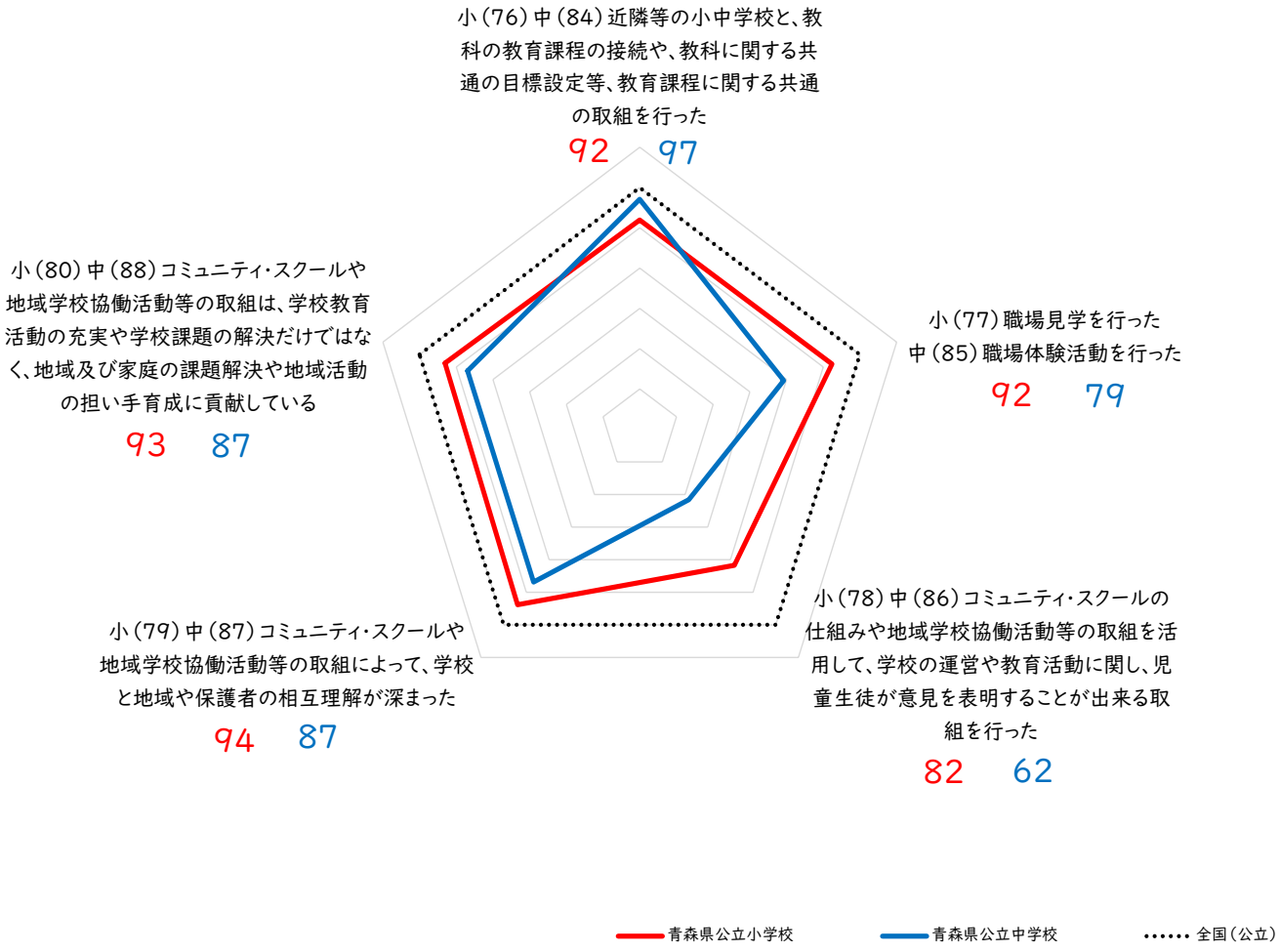
中学校



・全ての項目で、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・(70−4)、(70−6)、(71)、(78−4)、(78−6)、(79)の4項目については、全国を下回っているが、該当なしの割合が高いためである。

○ICT機器の活用については、各学校や各教員における効果的な活用が期待される。

⑥小学校と中学校の連携、家庭や地域との連携等

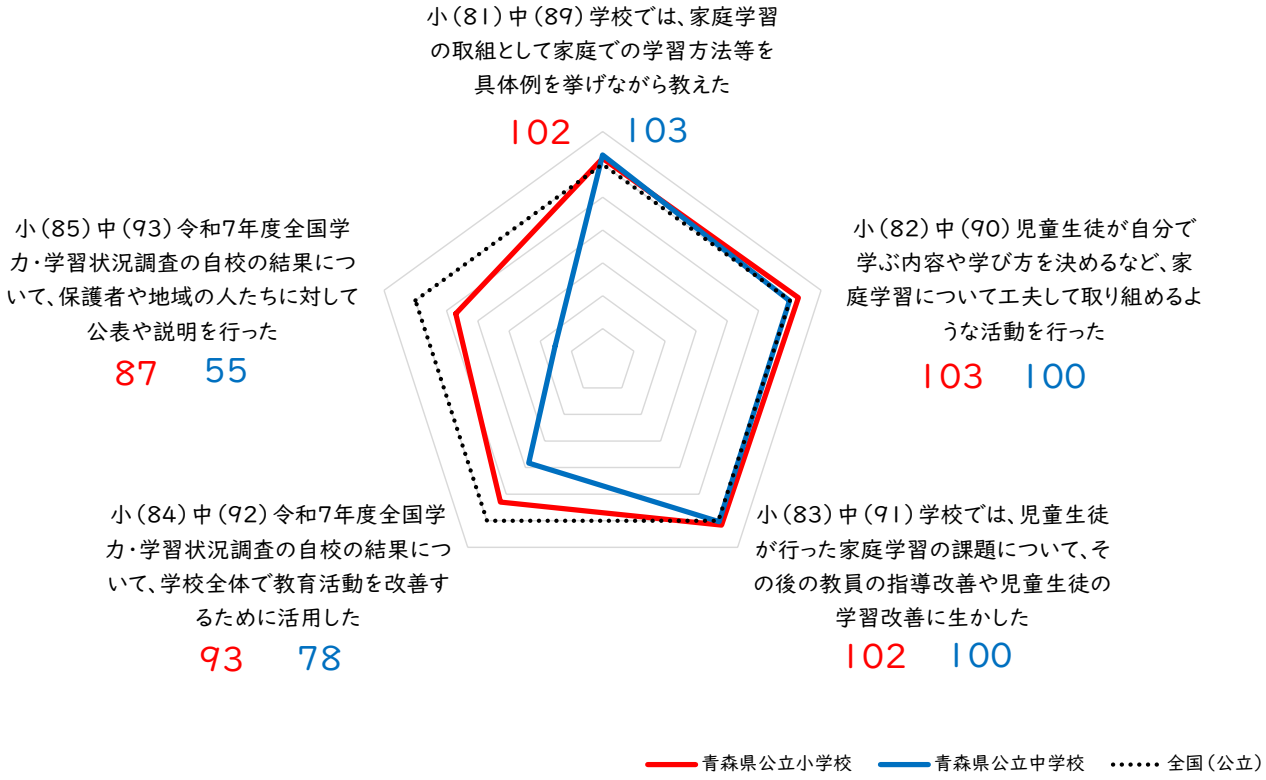


・全ての項目で、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
・小（78）中（86）「コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童生徒が意見を表明することが出来る取組を行った」、小（79）中（87）「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。
・小（77）「職場見学を行った」中（85）「職場体験活動を行った」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

〇小（77）「職場見学を行った」中（85）「職場体験活動を行った」については、各学校の実情により、対象学年での実施ではなく、他学年での実施も考えられる。

県教育庁生涯学習課
「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぐ青森県のキャリア教育ポータルサイト

⑦家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用



・小（81）中（89）「学校では、家庭学習の取組として家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
・小（82）中（90）「児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、家庭学習について工夫して取り組めるような活動を行った」、小（83）中（91）「学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした」については、小学校の肯定的な回答が全国を上回っている。また、中学校の肯定的な回答が全国と同じである。
・小（84）中（92）、小（85）中（93）の全国学力・学習状況調査の結果の活用及び公表や説明については、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を大きく下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるため、各学校の実情に応じた取組が期待される。

文部科学省
調査結果の活用・分析の取組

国立教育政策研究所
全国学力・学習状況調査の分析にかかる研修資料動画